

(囀中の文字)

○ 贊目〔目〕

木の下蔭を宿とせし。仲の町の

朝桜に。濡て出けり鶏一羽。猿若

三街一足走。一番太鼓諸共に。ワキ

狂言から見物左門。時に弥生の花

方揃。さいたりなく

飛鳥上野も及びなき。実

に大入の人の山。今を盛りの八重一重。

色香競ふ

十本の咲分。是はくどばかり評判も吉野山。今

流行の花吹雪。東錦の絵合にや

比ふべし。

黒評志連一個

善悪堂主人誌

○中村芝翫金千両

○坂東彦三郎金千両

〔双〕方対の名人ぞろい。坂東一の若木の

桜。外に中村ひるきの花方。色も香もある座

〔か〕頭〔ど〕士。まけず劣らぬ稀物の。勝負は

〔こ〕ゝに互角なるべし。

○中村福助金九百両

○市川九蔵金九百両

〔あ〕阿〔は〕波座がらすは難波そ

〔だ〕ち。花は三芳野吉原そ

〔だ〕ち。出刃庖丁は侠客の

□。劍の光腕伊達

□いきぢ 争ふ花の

〔くも〕雲。鐘は上野か浅〔草〕か。

〔〇〕市川

左團治金八百

八十両

〔〇〕沢村訥升金九百両

□下りの初桜。花も実も

〔有〕る舞台のこなし。こなたは▲

▲江戸の一

本木。沢むらさきの

ゆるしの色香。互に臂を鳥が

啼く。東錦の色摺は。柳桜を

混交し。都の春に劣らぬわざ

をぎ。どちらがよいやよしあしの。

難波のことは後々の評

判記に表はさん。

〔〇〕沢村田之助金九百九十両

〔〇〕岩井紫若金九百八十両

〔初〕瀬の山の初桜。花看る人の絶

〔や〕らぬ。愛敬人氣田之々々と。声かけまくもかしこぎ

□まへ。此方は花の大和屋と。名も著き太夫職。

〔落〕花微塵と打おろす。花に嵐を柳のうけ

〔太〕刀勝も負るも時世く

○市村家橋金不定

○河原崎権十郎金九百五十両

〔右〕近の橋左近の桜。雲井の花の

〔香〕もふかき当時日の出の旭桜。此方は色も

〔深〕見草。千両株の富貴と鬘扇。

□二争ふ此出合。喧嘩買も酒の

〔醉〕。花と鼻とをくらぶ山。ふり上

〔ら〕れた庖丁の。光りするとき拳

□さへに。敵対事も成田の

〔利〕剣。今が勝負の

〔真〕盛。双方負る

□江戸子の。性根□□□。